

## 2024年3月期事業報告書 (2023年4月1日～2024年3月31日)

特定非営利活動法人 ヴォース・ニッポン

### 1. 概要

2024年3月期の活動方針は、「高い品質と信頼性を備えた海洋の現場計測データを社会に提供する活動を堅実に推進し、基幹調査の安定化に取り組むことでデータの信頼性および活動の社会性を高め、新しい需要の開拓、データ利用の利便性の向上を意識しながら、事業基盤を整える」としました。

現行の装置による観測は、2024年で7年目を迎えようとしており、経年による部品の状態を丹念にチェック・修復する取り組みが続けられています。2023年の冬からは、基幹センサーである塩分計に、今年も不具合が発生。又、今年に入り、GPS関連の影響と思われるデータ記録欠損が発生し、原因究明と、早期の復旧を目指しています。

今期に取り組んだ各事業の詳細は、「5. 事業計画の実施内容」をご覧ください。

### 2. 会員数

- ・正会員数：12名（2024年3月31日現在）
- ・支援会員数：0名（2024年3月31日現在）

### 3. 総会・理事会

[総会]

第23回 通常総会は、2023年5月12日、当法人事務所で開催され、次の通り議決・承認されました。（正会員数13名、出席者13名、うち書面表決者0名、表決委任者6名）

- ・2023年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2024年3月期の事業計画および予算の承認

（事業計画は、データ回収・公開事業、装置維持管理事業の継続2事業、地域における海洋観測活動の新規事業、経常収入予算435万円、同支出413万円など）

[理事会]

第29回 理事会（日時：2023年5月12（金）／場所：当法人事務所）

- ・2023年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2024年3月期の事業計画および予算の承認

### 4. 監査

2024年3月期の収支計算書を含む全ての会計書類について、当法人監事による監査を受け、2024年4月24日付けで、内容は正確でかつ適法である旨の監査報告書を受領しました。

### 5. 事業計画の実施内容

2024年3月期は、次の3事業を実施しました。

- (1) データ回収・公開事業（継続事業）
- (2) 装置維持管理事業（継続事業）
- (3) 地域における海洋観測活動（新規事業）

## (1) データ回収・公開事業

### 当初の目標：

東京-北海道間の沿岸海域を航行する篤志観測船「ひまわり 8」による表層塩分、水温、pH データを低遅延で公開する。

### データ回収：

2023年8月、海洋観測装置の全システムの製造・管理を委託する電子会社が解散しました。その中で、2024年1月から、データの一部が記録されない、いわゆる時刻飛びが発生。現在は、当時の担当者から直接アドバイスを受けながら、復旧に取り組んでおります。

### データ公開：

「ひまわり 8」の観測装置による2023年4月～2024年3月までの東京-北海道間沿岸海域の公開データ数は約24.2万件と、一昨年2023年3月期の水準（27.6万件）と比べ12%の減少で、今年1月からはじまった時刻飛びの影響を大きく受けた結果となりました。

データの自動処理（品質管理・記録・公開）は、常に細かな修正がなされ、省力化と低遅延を更に進めています。

### 広報活動：

毎年参加している「東京湾環境一斉調査」（主催：京湾再生推進会議モニタリング分科会等）、指定された調査日が、ひまわり 8の航海日程から外れたため、今年は参加を見送り。

2023年10月に開催された「第23回 東京湾シンポジウム」（主催：国土交通省）のポスターセッションに今年も参加。これまでの22年間の歩みを振り返り、その活動の歴史を紹介。

### 実績経費：

データ回収・公開事業の実績経費は、64.5万円でした。

## (2) 装置維持管理事業

### 当初の計画：

塩分計の安定化、pH計の復帰、経年による各部品の補修、配管の保全など、観測装置全体の安定稼働に努める。「ひまわり 8」の運航に関わる関係者との緊密な連携を維持し、搭載装置が安定的に稼働するようにする。

### 観測装置の稼働状況：

2022年12月から顕著となった塩分計の記録異常。2023年4月24日に本船から撤去、事務所にて希塩酸洗浄後、昨年の総会後の5月15日に再設置。その後は正常に記録されていたものの、2023年の12月から再度、記録異常が発生。現在は、現場環境にて、電磁波の影響あるいは機械振動等の観点から、原因の調査を開始しています。

2021年12月に発注したpH計センサーが、その2年3ヵ月後、2024年3月11日に納品され、設置のための準備を進めています。但し、本機に関しては今後、生産中止の可能性も報告され、他のメーカーへの切り替えも求められています。

#### メンテナンスの訪船作業：

装置の定期メンテナンスは、およそ月に1回、主に3名のスタッフによって実施。訪船回数14回の内、臨時訪船3回を含みます。メンテ作業の従事者数は延べ32名。(メーカーの技術者は含まれません。)

#### 篤志観測船関係者へのお礼：

当法人は、観測装置を搭載いただいている「ひまわり8」の船主である日本通運株式会社様、運航管理をご担当の日本海運株式会社様、「ひまわり8」の乗員の皆様をはじめ、ご関係の皆様から多大なご協力をいただき、航走水温・塩分・pHデータを取得・公開しております。日頃のご支援に対し、深く感謝申し上げます。

海洋のモニタリングは、同一条件で長期に継続することに意義があります。今後も、皆様との信頼関係を維持・発展させ、目標達成に向けて進んでまいります。

#### 実績経費：

装置維持管理事業の実績経費は182.9万円です。経年による部品交換等、軽微な補修が重なりました。

### (3) 地域における海洋観測事業

#### 当初の計画：

「沿岸域でも、長期に継続することで、より大きな空間スケールで起こっている変化を捉えることが可能ではないか」という当初の目的意識を継承しつつ、相模湾=太平洋に面した場所に活動拠点を持つ利を活かし、新たな形の活動テーマを模索する。

#### 地域における海洋観測事業：

定点観測型の海洋モニタリングの新しい方向性を模索しつつ、テーマ設定のむずかさしに直面。活動の主軸である、観測船によるモニタリング事業の安定化を優先し、次期へ持越し。

#### 実績経費：

地域における海洋観測事業の実績経費は0万円です。

## 6. 事業会計の概要

### 2024年3月期事業会計

2024年3月期の事業会計の概要は以下のとおりです。当法人は非営利事業のみを行い、事業会計は、経常部門と特定資産部門とに分離して管理されています。

#### 〔経常部門〕

・ 事業収入	
受け入れ寄付金	342.0 万円
特定資産運用益収入	0 万円
・ 事業支出	
事業費（3事業計）	247.4 万円
管理費	135.9 万円

#### 〔特定資産部門〕

・ 期初特定資産総額	5,348 万円
・ 期中特定資産増加額	91.9 万円
・ 期末特定資産総額	5,440 万円

なお、経常部門の24年3月期末の正味財産合計額は-62.1万円で、前期末より58.5万円減少しました。

## 7. 運営上の課題

当法人は、「海洋の基礎データを誰もが自由に利用できるよう提供し、海洋環境の変動を解明することに貢献する」との理念を掲げ活動を続けてまいりました。現在は、持続可能な社会の実現に貢献するという目標に向かって、日本通運様様の RoRo 船により東京-北海道間の沿岸海域で取得した精度の高いデータをご提供することに努力しております。

活動の軸を立て直し、事業を安定して維持・展開するためには、篤志観測船による海洋モニタリングに深い興味と関心を持つ、新しい力が期待されます。運営を担う人材、あるいは現場のボランティア等、新しい力・人材の発掘にも取り組んで参ります。

今後も皆様のさらなるご支援をいただければ幸いです。

以 上